

「御国が来ますように！！」

マルコ5：21～35

「信じない」これは、多くの日本人の気質です。頭で理解しようとし、自分の考えとちょっとでも違うと受け入れがたいのです。新しいものに対して「アレルギー」があるのです。だから、私たちには本当の願いがあるのに達成できないことが多いのです。

「想像と意志」
聖書はずっと例えて話されていましたが、これが今具現化される時が来ています。今回は「治るはずのない人が癒される」という奇跡の箇所です。

「惨めさ＝気を紛らわす」
「私たちの惨めさを慰める方法として気を紛らわすという方法をとってしまっただけです。なぜ私たちが考えなくなったのか・・・」今ここからずっとメッセージが語られています。だから私たちがどちらを選ぶかを考えているのです。

聖書の中には奇跡が起こっています。「その人をかわいそうに思っただけ・・・」一義的にそんなこともあります。実はその中にも「神の計画」があります。その計画の中で、私たちの生き方を治すために、その一つの出来事が教訓になるのです。だから私たちは、起こっていることを考える必要があります。でも「わからない」私たちの口癖になってしまっています。こうなってしまうと、私たちが生きている意味がなくなります。でもそこに意味を見出すとそこに色が出てくるのです。

(マルコ5：21～35)
ここには二人の人が出てきます。会堂管理者と長血の女です。当時「血」は汚れていると理解されていました。

イエス様はこの記事の前に、この地で福音を語りましたが、彼らは拒否しました。そこに幸せの秘訣があるのにです。「信じない」・・・日本人と一緒にです。私たちが何者かわかっていないのは本当に危険です。ユダヤの人たちは自分たちのやり方と違ったからイエス様を追い出しました。だからイエス様は例えてしか話さませんでした。その後、向かいの地に行き伝え、多くの人が信じ奇跡が起こりました。そして戻ってきたのが今回の場面です。ほとんどの人がイエス様を否定する中でヤイロという会堂管理者がいました。ユダヤ人の中でも自分の娘が窮地に追いやられた時に素直になってひれ伏した者がいたということです。自分がどこに立っていて何が悪いかわかり、信じて懇願したのです。「信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」あなたが愛されていて、あなたを作った人がいて、もし問題の中にいるのであれば、信仰によって願えと言われているのです。

■ ヤイロ「光、光る」（語源：オール）

「神は仰せられた。「光があれ。」すると光があった。」(創1：3)
これは闇と光がわけられたという意味です。つまりヤイロが闇の中のユダヤ人からと光として分けられた人という意味なのです。そしてこの「オール」は「アブラハム（故郷＝ウル）」にも使われています。つまり「ヤイロ」と「アブラハム」は一緒なのです

■ 一生懸命懇願した（ゼカリヤ12：18～10）

「わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと哀願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、初子を失って激しく泣くように、その者のために激しく泣く。」(ゼカ12：10)
この懇願がこのあと起こるイエス・キリストの十字架にまで至るのです。アブラハムが、わが子イサクが取り去られる瞬間に信じて従った姿と、会堂管理者の姿が一緒なのです。

■ 長血をわずらっている女

十二年（シュッテームエスレー）
エラムの王（王の中の王）に仕えた年数をさしています。その後にはヤコブからイスラエルの12部族が生まれますが、これはのちに散らされ、争い、第二時世界大戦のホロコーストまで、ユダヤ人たちは迫害と痛みを通るのです。

ヤイロは娘のところに来てほしかったのですが、人が多く、行けませんでした。そこで、長血の女が出てきたのです。このことはヤイロにとっては一大事でした。この間、だれがさわったのかというやりとりが続きますがヤイロにとっては勘弁してほしい出来事でした。でもここで、私たちが知らなければいけません。それでも神様は私たちのことを忘れておらず、そこに緻密な計画があるということ。そしてこの緻密な計画の中で、私たちだけでなく、私たちの周りのすべての出来事、天地万物に意味を与えているのです。

長血の女が触ったことをイエス様がわからないはずがありません。でもわざわざ呼ぶ必要があったのです。長血の女に「私です」と言わせたかったのです。信仰は否定された者の中から光として分けられて自らが光として前進しようと信じる者だけに起こるのです。だから「よくなりたか」と聞かれるのです。長血の女もひれ伏してイエス様の前に出ました。彼女もユダヤ人です。そしてイエス様が言いました。「あなたの信仰が癒したのです。」ここで初めて平安があるのです。彼女は望みを失っていましたが、この瞬間望みを取り戻したのです。

■ 長血（漏出・ゾーウ）流れる・ほとぼしる

イスラエルの民の汚れ、苦しむ姿です。
これは「乳と蜜の流れる地」から来ています。「乳と蜜」・・・これらは生き物のいのちを失わず与えられる最大のものです。長血は罪によって犯した結果です。でもそこに神が与えてくださる恵みが一緒にあるのです。だから罪を犯しても「責めなくていいんだよ」と言っているのです。汚れすらも「乳と蜜の流れる地」なのです。

■ うしろからイエスの衣にふれた

癒される側が自ら行くという形です。触れた（ナーガ）は癒しとは真逆を意味します。罪のある彼女が触れるというのは死ぬような行為です。

「彼女がもし、彼女を自分のものにしようとした主人の気に入らなくなったときは、彼は彼女が贖い出されるようにしなければならない。彼は彼女を裏切ったのであるから、外国の民に売る権利はない。」(出エ21：8)

ここには女奴隷の規定が書かれていますが、主人は気に入らないからといって追い出さず、自由にしてやれとあります。長血の女は罪の奴隷とされていたが、主人である神様によって「ゆるされた（自由にされた）」ということ。長血の女は「癒される」のではなく「救われる」と思っていたのです。イエス（ヤーシャ）は救う者という意味です。彼に触れるという行為は契約を一度遮断して、彼がその代価を贖うことを通して、その人の奴隷としての役割を自由にしてあげるといふ行為なのです。「十字架の死」です。ヤイロの前にこれが必要だったのです。

■ 乾く（語源：ヤーヴァシュ）

「鳥を放った。するとそれは、水が地からかわききるまで、出たり、戻ったりしていた。」(創8：7)

ノアの洪水の日、神が赦して地が乾き、もう一度あなたにあなたの土地が与えられ、新しい地に行くということを行っています。信じる者には、新しい地が与えられるということです。

「そして、彼を外に連れ出して仰せられた。「さあ、天を見上げなさい。星を数えることができるなら、それを数えなさい。」さらに仰せられた。「あなたの子孫はこのようになる。」(創15：5)

恐れおののき（ヤール）これはアダムが罪を犯した時に「自分は罪を犯したから隠れた」という態度です。つまり、自分の罪を見つけて「自分が悪かった」とわかり、神様に手を伸ばした時に約束された言葉です。あなたが自分の罪を理解し、思い起こしずれていたことを認められると変えられるということです。

■ あなたの信仰が癒した

「信仰」エムーナ（動詞：アーマン）・・・これはアブラハムを意味します。アブラハムは自分で信じようとすることで義と認められました。信じようとするのが大切です。

「あなた自身は、平安のうちに先祖のもとに行く。あなたは幸せな晩年を過ごして葬られる。」(創15：15)

そして、あなたの人生は父の家に帰るのです。父の存在が大事です。アブラハムも長血の女も「父」を見つけました。長血の女はそれにより自分を否定する心から救われたのです。イエス様はわざわざ人々の前に呼んで、レットルをとってやったのです。神は愛した存在を本当のその人に戻したいのです。

■ まとめ

レ・ミゼラブルを書いたビクトル＝ユーゴは若いころから天才と言われていましたが、生き方は最悪でした。

彼の娘もよくなるよう懇願したが聞く耳を持ちませんでした。ところがその娘が不運にも亡くなってしまい、その時、初めてユーゴは気づいたのです。そんなユーゴは言いました。「人は強さに欠けているのではない。意志を欠いているのだ」自分が犯した悪をみとめて、赦されて、イエスの十字架によって新しくなろうとする、その恵みが長血の女のストーリーです。私たちもこの長血の女のように信じて自分の意志で神様の前に出て、赦され本来の私たちに戻っていきましょう。

（要約者：岩崎 祥誉）

（2023年2月12日）